

21PO-am052

高脂肪食摂取肥満モデルマウスに対する温胆湯の効果

○高橋 勇希¹, 高橋 拓也¹, 高田 真綾¹, 服部 和桂¹, 若命 浩二¹, 小松 健一¹ (¹北海道科学大薬)

【目的】漢方医学において過食は肝気犯胃といい、ストレスによって抑制された全身の気の滞りが肝の機能を抑制し、その肝気の抑制が胃に及んだものと解釈する。肥満は勿論、カロリーの取り過ぎが直接原因に違いないが、自己の内因として「脾虚湿盛・湿聚成痰」という、「脾」の機能減退と水分代謝の停滞が根底にあり、「痰熱」の蓄積と考えられる。温胆湯は、脾胃の昇降失調を正常にし、痰熱を除き、痰熱が引き起こす症状を改善するとされている。本研究では肥満モデルマウスに対する温胆湯の抗肥満効果の検討を行った。

【方法】普通餌あるいは高脂肪餌を給餌したマウスに温胆湯を 6 週間投与し、摂餌量、摂水量、体重の変化を観察した。また、6 週間後の血清を採取し、血清中脂質等の測定を行った。

【結果】普通餌摂餌群と高脂肪餌摂餌群では摂餌量や給水量に違いは認められなかったが、カロリーベースでは、普通餌摂餌群 424 kcal/6 週、高脂肪餌摂餌群 581 kcal/6 週であった。これに伴い有意な体重の増加が認められた。この高脂肪餌摂餌群に温胆湯を投与した場合においても体重増加に有意な変化は認められなかった。6 週間後の血清脂質は高脂肪餌摂餌により中性脂肪(TG)、総コレステロールの上昇が観察されたが、温胆湯投与した群において TG の有意な低下が認められた。また、普通餌摂餌群においても TG の有意な低下が認められた。

【考察】体重増加を改善する効果は認められなかったが、血中脂質の改善効果は認められた。また、普通餌摂餌群のマウスでも TG の低下が認められたが、飼育マウスは野生マウスに比べると、例え普通餌だとしてもカロリー過多の状態にあると考えられ、温胆湯の「痰熱」を除く作用が確認できたものと推察される。